

◆地域公共交通計画とは

「**地域公共交通計画**」は、地域公共交通が果たすべき役割を踏まえた上で基本方針や目標を設定し、目標達成のために実施する事業等を定めた計画で、『**公共交通に関するマスタープラン**』となる計画です。

羽島市地域公共交通計画

基本方針

人と暮らしをつなぎ、みんなで支えあう
地域公共交通ネットワークの構築

計画の区域

羽島市全域
(隣接市町との連携を含む)

計画の期間

令和7年度～令和11年度

目標

- 目標1 暮らしに便利でみんなに利用される公共交通の実現
- 目標2 おでかけ機会を創出し、まちを活性化させる公共交通の実現
- 目標3 みんなが知っている、利用しやすい公共交通の実現
- 目標4 みんなが協力して、ともに支える持続可能な公共交通の実現

目標達成のために行う事業

運行サービスの改善

- ・コミュニティバスの見直し
- ・新たな運行方式の研究

公共交通のPR・利用促進

- ・出前講座、乗車体験会等
- ・公共交通のPRの実施
- ・交通ガイド、地域別マップの作成
- ・地域住民のニーズを反映させる仕組みの構築

利便性向上

- ・キャッシュレス化の推進
- ・高校生の通学に対する補助
- ・バス停の待合環境の改善

持続可能な公共交通確保

- ・運転手確保対策
 - ・柔軟な運賃体系の検討
- (主要な事業を抜粋)

評価指標

評価指標	目標値
利用者数	
名鉄竹鼻線・羽島線	2,009,948人/年
名阪近鉄バス羽島線	146,900人/年
羽島市コミュニティバス	98,400人/年
高齢者定期券購入者数	450人・月
中心市街地・主要施設での コミュニティバス乗降者数	365人/日
利用促進PR実施回数	6回/年
コミュニティバス (自宅最寄りバス停)の認知度	60%
利用者1人あたりの運行経費	875円/人
主要交通結節点での 乗り継ぎ利用者数	16.0人/日

羽島市地域公共交通計画（令和7年3月改定）において定めている数値目標のうち、令和7年度の目標達成状況を整理した。

目標① 暮らしに便利でみんなに利用される公共交通の実現

令和7年度の利用者数は、名鉄竹鼻線・羽島線は目標値には達しなかったが、増加傾向。名阪近鉄バス羽島線は目標値を達成、羽島市コミュニティバスの利用者数は羽島温泉の臨時休館の影響もあり、目標値には達しなかった。他方、羽島市コミュニティバスの高齢者定期券購入数は目標値を達成している。

目標① 評価指標	実績値	目標値	
	令和7年度	令和7年度	令和11年度
利用者数 名鉄竹鼻線・羽島線 名阪近鉄バス羽島線 羽島市コミュニティバス	185万3,387人/年 14万4,187人/年 9万5,074人/年	187万3,270人/年 13万6,290人/年 9万6,547人/年	200万9,948人/年 14万6,900人/年 9万8,400人/年
高齢者定期券購入者数	483人・月	440人・月	450人・月

目標② おでかけ機会を創出し、まちを活性化させる公共交通の実現

令和7年度の中心市街地・主要施設での乗降者数はJR岐阜羽島駅及び市民病院の乗降客数増加に伴い、目標値を達成している。

目標② 評価指標	実績値	目標値	
	令和7年度	令和7年度	令和11年度
中心市街地・主要施設でのコミュニティバス乗降者数	366人/日	358人/日	365人/日

目標③ みんなが知っている、利用しやすい公共交通の実現

令和7年度は市内イベント、進路説明会でのPRや出前講座、無料乗車イベントなど幅広く利用促進PRが実施できた。

目標③ 評価指標	実績値	目標値	
	令和7年度	令和7年度	令和11年度
利用促進PR実施回数	8回/年	—	6回/年

目標④ みんなが協力して、ともに支える持続可能な公共交通の実現

令和7年度の利用者一人当たりの運行経費は、利用者数が微減した一方で人件費や燃料費の増加により上昇した。主要交通結節点での乗り継ぎ利用者数は、岐阜羽島駅における、はしまわる線同士、名阪近鉄バス、新幹線、名鉄電車との乗り継ぎが増加している。

目標④ 評価指標	実績値	目標値	
	令和7年度	令和7年度	令和11年度
利用者1人あたりの運行経費(円/人)	884円/人	875円/人	875円/人
主要交通結節点での乗り継ぎ利用者数(人/日)	20.2人/日	15.0人/日	16.0人/日